英米文化学会会報

第 90 号　　平成 24 年 2 月 15 日

公民権運動の聖地とも言うべきアラバマ州バーミンガムには、時代を感じさせるバスが走る。
ローザ・パークスが席を立つことを拒否して逮捕された「差別バス」の型を復活させたものだ。
彼女の勇気を賛え、キング牧師のバス・ボイコット運動を忘れないために。（撮影：佐野 2005 年）

目次

◆ 例会担当より　英米文化学会第 137 回例会のお知らせ
◆ 大会担当より　英米文化学会第 30 回大会（9 月開催）のお知らせと大会発表者募集
◆ 分科会担当より　報告
◆ 財務担当より　お願い
◆ 事務局より　会報の電子化・学会暦・会員による著作の紹介・会員消息

◆英米文化学会　第 137 回例会のお知らせ

（例会担当理事：　田嶋倫雄）

日時：平成 24 年 3 月 10 日（土）午後 3 時 00 分～6 時 00 分
　　午後 2 時 30 分受付開始
場所：日本大学歯学部 3 号館 2 階第 5 講堂＜地図は 4 ページに掲載＞
　　(JR 御茶ノ水、営団千代田線新御茶ノ水、都営新宿線小川町他下車)
懇親会：会場：日本大学歯学部 3 号館地下ラウンジ
　　時間：午後 6 時～8 時　懇親会のみの参加も歓迎いたします。
　　会費：1,500 円

開会挨拶

英米文化学会会長　　小野昌（城西大学）　　（3：00－）

研究発表

1. 明治知識人のイースト・エンドとの遭遇

（3：10－3：40）

発表　加賀谷真澄（筑波大学大学院）
司会　坂井竜太郎（中央学院大学）

2. 歌詞から見た英語の韻律的特徴 ---「The Rose」を例に

（3：40－4：10）

発表　赤木大介　（大東文化大学大学院）
司会　佐野潤一郎（創価大学）

----- 小休止（4：10－4：20） -----

3. Making language your own, or losing it: Reflections on Hong Kong English and other ‘Englishes’

（4：20－4：50）

発表　Adrian Pablé (The University of Hong Kong)
司会　北林　光　（大東文化大学）

上記の発表は、発表者の都合により中止となりました。

4. ジェントリフィケーションとマスキュリニティ---*American Psycho* (1991)と *Fight Club* (1996)の場合

（4：50－5：20）

発表　越智敏之　（千葉工業大学）
司会　笠原慎一朗　（昭和女子大学）

総会　（5：20－）

閉会挨拶

英米文化学会会長　　小野昌（城西大学）　　（5：40－）

研究発表抄録

1. 明治知識人のイースト・エンドとの遭遇

発表　加賀谷真澄（筑波大学大学院）

ロンドンの貧民街を訪れた日本人として、最も早い時期に記録を残しているのは、1872 年に欧米視察団の一員として渡英した木戸孝允だろう。その後、イースト・エンドの実態は、『モーニング・クロニクル』*Morning Chronicle* の記事や、宗教家チャールズ・ブース（Charles Booth）による活動、ウィリアム・ブース（William Booth）による社会学的調査などによって、日本にも知られるようになった。その後日本でも、桜田文吾や松原岩五郎、横山源之助などが貧民街を取材した記事を発表するようになる。しかし、日本版「貧民もの」を、イースト・エンドについて書かれたものと比較した時、焦点の当て方に差があることに気づく。本発表では、日本が独自の貧民表象を形成する過程で、モデルとしたイースト・エンド表象からそぎ落としていった要素と、その背景にある時代的な要請を考察する。

2. 歌詞から見た英語の韻律的特徴 ---「The Rose」を例に

発表　赤木大介（大東文化大学大学院）

作詞作曲する際、英語の韻律的特徴は歌詞と旋律に影響を与えうることから、英語の音声学的特徴は、旋律を構成する際に意識されるべき要素といえる。英語歌詞で制作され、後に和訳された約 200 曲を日英比較対照した結果、対訳歌詞の内容や旋律への配置における相違点、シラブルとモーラの違いが音節数と音符に与える影響、また強弱アクセントや高低アクセントがリズムと内容語の配置に差異をもたらされることが分かった。

本発表では、英語歌詞がオリジナル版の「The Rose／愛は花、君はその種子」を例とし、英語歌詞によって作曲された楽曲が、英語の韻律をどのように反映しているのかを見てゆく。さらに、日本語歌詞をもとに作られた「ハナミズキ」とその英語版を例に、日本語を基盤とした旋律に英語歌詞を当てはめる場合では、顕著な相違について論じる。

3. Making language your own, or losing it: Reflections on Hong Kong English and other 'Englishes'

発表　Adrian Pablé (The University of Hong Kong)

This presentation considers the notion of the individual's *linguistic responsibility*, and contrasts it with the supra-individual concept of *linguistic variety*. In academic linguistics, it is common to talk about different 'Englishes', which are defined by the geographical location in which they are being spoken. The discourses that are thereby established and sanctioned in academia become accepted ways of talking about languages, the latter being treated as autonomous systems to which individuals either adhere or not. Within such a discourse the individual language-user is as a consequence dismissed from the linguistic responsibilities that language-use automatically entails. Language is thus reified, while the individual language users are lost sight of: they are representative speakers of a variety, who have rights (and express those rights) as speakers of that variety, with the sociolinguists as their spokesmen. The lay speaker's opinion is always subordinate to the expert's, especially when the two happen to clash. This presentation will be supported by the speaker's personal reflections on his experience of living in Hong Kong, and will plead for a 'lay-oriented' linguistics.

本発表は、発表者の都合により中止となりました。

4. ジェントリフィケーションとマスキュリニティ…*American Psycho* (1991)と *Fight Club* (1996)の場合

発表　越智敏之　（千葉工業大学）

1970 年代以降都心部の景観を変貌させつつ進展しているジェントリフィケーション（都心部の再開発とそれに伴う中流階級の都心部への流入）の背景には、工業化社会から脱工業化社会への移行という社会変動がある。集団生産を基盤とした工業化社会では白人男性であることに意味があり、一方個人の能力に立脚する脱工業化社会では、能力の多寡が重視され、個人の出自から意味が消失した。さらに脱工業化社会の担い手として都心部に流入するジェントリファイアーは、能力重視の社会構造が原因で、いずれも高学歴となり、大学で身につけたリベラルな美学や価値観でジェントリフィケーションで生まれた空間を埋めていく。ジェントリフィケーションがグローバル化していく 90 年代に執筆された *American Psycho* と *Fight Club* では歪んだマスキュリニティが描かれているが、本発表にはその背景にジェントリフィケーションの進展により美学や価値観の抜本的改編が起こり、そのことが従来のマスキュリニティに与えた影響があることを論じる。

＊ 例会会場（日本大学歯学部）　例会(3 時～)・懇親会(6 時～)とも 3 号館です。

(JR 御茶ノ水、営団千代田線新御茶ノ水、都営新宿線小川町他下車)

◆　英米文化学会第 30 回大会（9 月開催）のお知らせと発表者募集

（大会担当理事：松谷明美）

大会の日程と会場は以下のとおりです。
日程：平成 24 年 9 月 8 日（土）・9 月 9 日（日）
場所：山梨県立大学 (JR 甲府駅南側)　詳細は次号（電子版―学会 HP に掲載）
上記大会の発表者を募集いたします。ふるってお申し込みお願い致します。発表時間は 30 分です。発表希望の方は、ご氏名・ご所属（勤務先）を明記の上、研究発表題名と「抄録」（400 字）を下記のアドレスまでメールにてお送りください。件名には「英米文化学会大会発表希望」とお書きください。申し込み締め切りは 4 月 9 日（月）です。

発表申し込み先：松谷明美　AkemiMatsuya(at)SES-online.jp

＜おことわり＞
メールアドレスの表記については、@入りのメールアドレスを検索・流用して迷惑メールを送りつける悪質な業者が、昨今、多いようですので、「@」を「(at)」に置き換えて表記させていただいております。メール作成のときには、お手数とは存じますが(at)を@に置き換えてご送信いただきたくお願いいたします。

◆ 分科会担当より　報告

（分科会担当理事：須田理恵）

分科会「イギリス近代演劇と劇場」（代表 藤岡阿由未）
- イギリス近代演劇にどうアプローチするか確認
- 6 名の分担内容決定
- 次回以降の分科会開催の場所（清泉女子大）
- 発表のスケジュール（2012 年 9 月、2013 年 2 月、2013 年 5 月の 3 回）
- 出版へ向けて（2013 年 6 月以降原稿の再構成、修正等）

◆ 財務より　お願い

（財務担当理事：山根正弘）

年会費３年間未納の会員に、会費納入のお願いをしております。
前年度および今年度分の納入がお済みでない会員も年度内に納入をお願いします。
振替用紙は昨年 5 月の会報に同封いたしました。お手元にない場合、
ゆうちょ銀行・郵便局に備え付けの振込取扱票もご利用できます。
納入状況は、山根正弘 MasahiroYamane(at)SES-online.jp にお問合せ下さい。

年会費　：５，０００円
口座番号：００１６０−７−６１１７７７
加入者名：英米文化学会

◆ 事務局より　会報の電子化・学会歴・会員による著作の紹介・会員消息

（事務局担当理事：大東俊一）

＊会報の電子化
これまで印刷しました会報を皆様のお手元に郵送してまいりましたが、平成 24 年度より紙媒体を廃止し、学会ホームページで公開しております電子媒体の会報に一本化することになりました。平成 24 年度につきましては過渡的措置として、例会、大会前に概要を郵便にてお知らせいたします。

＊平成 24 年度学会暦

	第 138 例会 日本大学歯学部	第 30 回大会 山梨県立大学	第 139 例会 日本大学歯学部	第 140 例会 日本大学歯学部
開催日	6 月 9 日	9 月 8・9 日	11 月 10 日	平成 25 年 3 月 9 日
発表申込締切	4 月 9 日	4 月 9 日	9 月 10 日	平成 25 年 1 月 9 日
会報投稿締切	91 号 =5 月 6 日	92 号 =7 月 5 日	93 号 =10 月 7 日	94 号 =平成 25 年 2 月 3 日
会誌『英米文化』 投稿締切	平成 24 年 10 月 31 日			

＊会員による著作の紹介

永田喜文『ケルトを旅する 52 章　イギリス・アイルランド』
(明石書店、2012 年、￥2,000 税別)
永田喜文(共著)『ウェールズ語の基本　入門から会話まで』
(三修社、2011 年、￥3,400 税別)
永松美保氏(共著)『新世紀の英語文学　ブッカー賞総覧 2001－2010』
(高本孝子・池園宏・加藤洋介編、開文社出版、2011 年、￥2,800 税別)

次号以降、会報は電子化されますので、会員による出版の情報は、
ホームページ担当の佐藤治夫理事長 HaruoSato(at)SES-online.jp まで、
書誌事項をお送りください。

＊会員消息

省略

英米文化学会会報　第 90 号　編集／発行：英米文化学会　編集責任者：佐野潤一郎
〒181-0012　東京都三鷹市上連雀 5-27-23
英米文化学会事務局 〒339-8539 さいたま市岩槻区馬込 1288 人間総合科学大学人間科学部 大東俊一研究室内
Tel:048-749-6111(office), 03-5399-3395(home)　E-mail:ShunichiDaito(at)SES-online.jp
年会費等振込先：郵便振替　加入者名　英米文化学会　口座番号　00160-7-611777
学会ホームページ http://www.SES-online.jp/indexj.html